研究室紹介

環境工学科第1講座(上田研究室)

上田　篤*　鳴海邦碩**

はじめに

環境工学科は昭和43年に大阪大学工学部の17番目の学科として開設された学科である．本講座は環境工学科において，「環境計画学」を担当する講座として，昭和44年4月に開設された．

現在の教官構成は，上田篤教授，鳴海邦碩助教授．安田孝助手，加藤晃規助手である．大学院以上の学生は，大学院後期課程4名（うち1名はブラジル国留学生），前期課程5名である．その他，インドネシア国バンドン工科大学講師が客員研究員として，また同国ガジャマダ大学講師が学振研究員（日本学術振興会が招へいした研究員）として配属されている．

ひとことに環境といってもその領域は非常に広い．人間にとっての環境には，都市空間のように構築された環境や自然の環境がある．また人間のつくり出す集団は社会的環境を形成している．すなわち，人間が生存している総体的な場が人間にとっての環境であるといえる．

本講座は「環境計画学」を担当しているが，実体的な空間としての環境の計画手法，もうすこし具体的にいえば，住居から地域までを含んだ人間の定住環境の計画手法に関する研究と教育を行なっているのである．

本講座の研究は，次の3つのテーマにそって行なわれている．

1．住環境の理論に関する研究
2．都市デザインの手法に関する研究
3．地域生活空間の計画に関する研究

これらの研究の概要は以下のとおりである．

*上田　篤 (Atsushi UEDA)，大阪大学，工学部，環境工学科，教授，工学博士
**鳴海邦碩 (Kunihiro NARUMI)，助教授，工学博士

1．住環境の理論に関する研究

人間の定住環境の最も基礎的な単位は住居である．人間の住居は，雨風をさけるための単なるシェルター以上のものである．すなわち人間の文化的な営為が住居という空間のなかに構造化されているとみることができる．このような住居の集合が主体となって人間の定住環境を形成しているわけであるが，環境計画学の基礎的な理論研究として，人間の定住環境の構造を明らかにするための研究が進められている．この方向での具体的な研究としては次のものがある．

(1)　住文化の伝播と変容に関する研究

たとえば移民が建設した都市や住宅および生活様式の実態を調査，分析することによって，本国の住文化が他の国においてどのように維持されあるいは変容しているかについて研究するものである．昭和55年度には，ブラジルにおける日系移民，ドイツ系移民，イタリア系移民の住居についての現地調査が実施され，現在その分析が進められている．

(2)　現代日本の村落における住環境の変化に関する研究

日本の村落社会における，伝統的，地域的な生活上および文化上の価値と，現代社会におけるその変化を，生活空間，社会制度，生活様式等の各側面より実証的に明らかにしようとする研究である．民族学，歴史学，社会学等の分野の研究者との共同研究で進めている．ユネスコで進められている「アジア的生活様式と環境デザインに関する地域比較研究」の日本における研究分担をになうものである．

(3)　住居における聖なる空間の研究

住居は人間の文化的営為が構造化されたものであると述べたが，未開部族の住居などをみる

と，住居はひとつの「小宇宙」であるととらえられている場合もみられる．住居の原型的な空間を明らかにするために，住居における聖なる空間に着目した研究を行なっている．研究は文化人類学，歴史学等の分野の研究者との共同研究で進められている．

2．都市デザインの手法に関する研究

都市を一定の意志に基づいてデザインすることの歴史は非常に古い．そのような都市デザインの系譜を明らかにするとともに，現代における都市デザインの手法開発にかかわる研究を進めている．中心的なテーマとしては次のものがある．

(1) 都市における自由空間のデザイン手法に関する研究

自由空間とは，街路や広場のように人々の利用に開かれた空間である．公共的な空間であるといってもよい．このような空間のあり方は都市空間の快適さを大きく左右するものである．広場などの自由空間が形成される社会的背景およびそのデザイン手法の系譜の把握に基づき，具体的なプロジェクトなどを通じて新しいデザイン手法の開発を進めている，

(2) 都市住宅のデザインに関する研究

接地（地面に接する），接道（道路に接する）型の低層住宅は理想的都市住宅のひとつのタイプであると思われる．この種の住宅について主に，計画・設計上の課題について研究を行なっている．

また，都市住宅の中高層化は，マンション建設のような形で急激に進行しており，賃貸型の中高層住宅から，その主流は分譲型中高層住宅に移ってきている．居住者の定住意識の実態を明らかにし，計画手法に生かそうとする研究があわせて進められている．

3．地域生活空間の計画に関する研究

まったく新しい定住環境を建設する場合を除けば，環境整備の方向は既成環境の再編にあるといってよい．都市および地域の再創造の手法について，行政上の可能性の検討を含めた計画的研究を進めている．主なテーマとしては次のものがある．

(1) 個別建て替えの誘導による市街地整備手法に関する研究

市街地の変容は，主として個々の建築敷地を単位とした変容の累積としてもたらされるとみることができる．この個別的な変容の実態を明らかにするとともに，それを前提とした市街地整備の手法の検討を進めている．

(2) 認知環境の構造に関する計画的研究

人々が地域に対してもつイメージは，地域の環境形成において大きな影響をもつ．例えば良好なイメージをもつ住宅地における建設活動では，そのイメージを継承するような傾向がみられる．地域イメージは個々の人間が環境をいかに認識しあるいは把握するかによって形成されるわけだが，主にその環境形成への影響に関して研究を進めている．

(3) 人間の定着と移動に関する研究

都市や地域のかかえる問題は，ひとつには，人間の定着と移動のメカニズムに充分に対応できないところからきていると思われる．人間の定住環境の計画に反映させる目的で，このメカニズムの解明に関する基礎的研究を進めている．

最後に現在準備中の研究テーマについて，簡単に紹介すると次のようなものがある．

イ．人間環境の構成理論に関する基礎的研究
ロ．重層社会の環境計画に関する研究
ハ．鎮守の杜の保存と修景に関する研究

む す び

本講座が開設されてまだ10年あまりであるが卒業者は60余名である．参考までにその就職先を分野別に示すと次のとおりである．

◦建設会社・民間ディベロッパー	24名
◦国家および地方公務員	15
◦シンクタンク，設計事務所	8
◦日本住宅公団	4
◦そ の 他	10